

古道と云うと、かつて使用されていたが現在はあまり利用されておらず、当時のままの状態に残されているような道のことであり、そういう意味においては新座には古道はない。然し乍ら、鎌倉往還や奥州街道という名称が残っており、江戸往還と呼称される道路も幾筋かあるようだ。旧川越街道が市内を横断しており、古道とは言えぬとしても昔から使われていた道であり、恵山道なる道路あり、水道道路もある。先に記した防衛道路もある。

教育委員会の文化財担当に問い合わせ、新座市史をも確認したところ、鎌倉往還や奥州街道は、本来の鎌倉道や奥州街道との保証はないようだ。何故、このようなことが起きたのだろうか、謎である。

1 鎌倉往還

鎌倉往還 or 街道とは、鎌倉に通じる中世の主要な古道の総称である。建久三年(1192)源頼朝が鎌倉に幕府を開き、関東各地と鎌倉を結ぶ軍道が整備された。『いざ、鎌倉』、幕府危急の際、御家人達はこの道を伝って鎌倉へと馳せ参じたのである。

新座市大和田を通る鎌倉往還は、久米川宿（東村山）で上道（かみつみち：鎌倉から武蔵西部を経て上州に至る古道）から分岐して、柳瀬川沿いを通り、富士見市水子から羽根倉橋（志木）で荒川を渡り更に北上して奥州道に合流していた。

新座市大和田宿の第一新座幼稚園付近から普光明寺を経る道は鎌倉往還の一部であるとされる。写真左側が普光明寺である。



大和田は鎌倉幕府の国衙であり、鎌倉に通じた道があったことは間違いなく、本来的な鎌倉往還ではなく、通称 or 俗称としての鎌倉道・往還だったのではないだろうか？

2 奥州街道

江戸時代の五街道の一つである奥州街道は、江戸日本橋を起点として千住から白河へと至る街道である。下野国宇都宮宿以南の区間は日光街道と共用されており、宇都宮宿伝馬町の追分で日光街道と分岐していた。即ち、新座域を通る筈がないのであるが、現在の県道40号線（浦和・東村山線）、所謂志木街道を奥州街道と呼称していたようだ。北上すれば確かに奥州には至るだろうが・・・



3 その他の道路について

新座市域の南北に走る道路は生活道路であり踏み分け道であるが故に、一部の例外を除いて固有の名称がないようだ。東西に走る道路は固有の名称を有している。その代表が川越街道であり、江戸往還、清戸道である。それらについて管見する

(1) 川越街道

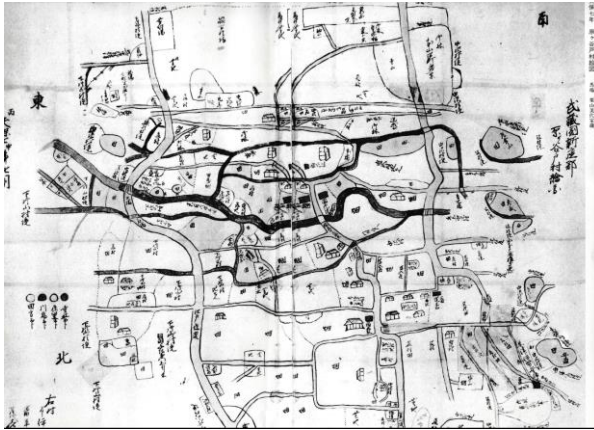
川越往還とも呼ばれ、江戸日本橋から川越まで約十一里を結び、中山道の脇往還として五街道と並ぶ重要な道路であった。川越は、江戸の北西の要という地位にあり、藩主は老中格の譜代大名が配された。松平信綱が川越城主となってから整備が進んだ。上板橋、下練馬、白子、膝折、大和田、大井の六コ宿が置かれた。大井と膝折には本陣が置かれた。

街道筋には往時を偲ばせる石仏や神社等がある。

(2) 江戸往還

近世(江戸時代の寛政や天保時代)の近世の地図に江戸往還と記載されている。和光市南端～新座墓苑から新座域に入り、黒目川の千代田橋を渡り畑中公民館通りや陣屋通りに至る道と考えられる。云わば、高崎松平藩の陣屋から江戸城に至る道であろう。荒沢不動尊横の道路(写真)も含まれている。

地図は、寛政12年原ヶ谷戸村絵図(新座市史調査報告書十一地誌)



(3) 清戸道

黒目川沿いの村々から、現在の清瀬市方面に向かう道の総称であり、いくつかの道が比定されている。そのうちの1つについては、歴史民俗資料館付近の馬頭観音や馬喰橋付近の庚申塔の側面に、清戸道であることが記されており、今でもその名残を確認することができる。

(4) 恵山通り



菅沢稲荷の境内に「恵山通り」の由来碑がある。それによると、『天明2年(1782)高崎藩家老菅谷清章(法名=恵山玄忠)公は、所有された土地を村民に託しその後菅沢村に寄贈されました。(中略)地域の繁栄を願い新道を計画、・・資金の一部に境内地の売却益を充て・・全長1830米・・昭和43年開通し・・恵山玄忠公の御遺徳を称え恵山通りと名付け・・』

(5) 水道道路

水道道路は、主に上水道に供される原水または浄水の輸送管を埋設した土地の上に設けられた道路である。朝霞市にある朝霞浄水場と東京都東村山市にある東村山浄水場間を結ぶ水道管が同道路下に埋設されていることから、「水道道路」と呼ばれるようになった。同市新堀・西堀地区で野火止用水と併走している。何故か東京都の水道管だ。